

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL
9
2007



患者様から学び、患者様に還元する病院

愛媛大学医学部附属病院

患者様と話し合い、目指す方向を共有し、その方らしい人生を支援する

医療福祉支援センター 檜本真聿 センター長



退院支援のための病棟回診の様子

大学病院の役割は、高次医療の提供ですが、一方患者様を治療して自宅にお帰しする退院支援、あるいは他の病院へ安心して引き継ぐ地域との連携、治療内容以外の総合相談の機能が求められています。そこで、医療福祉支援センターは、「総合医療相談室」と「地域連携推進室」の2本柱で、患者様やご家族に対する医療・福祉・看護相談等の医療サービスを行うと共に、地域の医療機関、福祉行政や他施設との連携を図り、患者様やご家族が安心して療養できるよう支援する目的で設立されました。その役割を担う本セン

ターを、私は、病院の営業本部だと思っています。当院への期待や苦情を受け入れながら、院内だけではなく外に出かけて、当院の機能を地域に提供できるように努めています。今年7月、国立大学附属病院の「医療連携・退院支援関連部門連絡協議会」が、地方都市で初めてとなる愛媛で開催されました。これは、当センターが全国に先駆けて、専任医師を置く医療福祉支援センターとして全国のリーダー的役割をアピールしてきたからこそ、繋がったのだと考えています。

本センターは設置から間もないセンターですので、まだまだやるべきこと、できることはたくさんあります。患者様主役の考え方のもと、患者様が何を求めているかを把握することが大切な仕事。患者様一人ではわからないこと、決められないことが多いですから、私たちが一緒になって模索し、目指す方向を共有します。そのためには、しっかりと時間をかけることが、本センターのポリシーです。



PROFILE

ひつもとしんいち◎1979年愛媛大学医学部卒業、医学博士。公衆衛生学、ヘルスプロモーション、地域医療連携などを専門に活躍。卒業後、同大学医学部公衆衛生学の助手、愛媛県の保健所長や健康増進課長などを経て、2002年8月より現職。趣味はゴルフ、車。他にも、洋画が好きで、ジャンルにこだわらず、新作DVDを見る。



各診療科と医師を紹介する「地域連携だより」

それは医療連携も同じで、各機関が役割分担や手段で、単に仕事を分け合うのではなく、患者様にとって一番いい方向を共有することが重要ですね。例えば、退院支援を依頼された患者様は、私たちが毎週1回、病棟回診を行っています。病室に私やスタッフがうかがい、ご本人、ご家族、主治医、看護師長などと話し方向を共有する、とても大切な時間です。また回診によって、同室の患者様などに本センターの存在を知っていただき、利用のきっかけになっています。情報発信の面では、各診療科の先生方の顔写真入りで、当院を紹介する「地域連携だより」という冊子を作成しました。当院は以前から、地域医療を重視していましたが、情報発信をより強化して、一層地域に開かれた病院を実現したいと思っています。さらに、いよいよ高島屋さんの協力を得て、「ヘルスアカデミー」という医療セミナーを定期的に開催したり、医療や福祉の相談窓口を設置する予定です。このように、当院が持つ情報や知識を地域に還元し、多くの方に知ってもらうことで、地域連携にも繋げていきたいと思っています。

総合臨床研修センターの研修プログラムで、自分の未来と向き合う

第2外科 日高登志子 医師



PROFILE

ひだかとしこ ◎2005年愛媛大学医学部卒業。卒業後、臨床研修制度を利用し、1年目は松山赤十字病院、2年目は当院での研修医を経て、3年目に当院第2外科に入局。趣味は映画鑑賞と料理。週1回は映画館に足を運び、話題作を網羅。得意な料理は焼き餃子。

私は研修医を終え、今年から第2外科に入局し、現在は呼吸器グループで研修しています。将来は乳がんや乳腺疾患などを専門にしたいと考えていますが、現在は外科専門医の資格をとるため心臓や消化器・小児外科など、外科分野の様々な症例について学んでいます。

私は、総合臨床研修センターが設置され、新しくできた研修プログラム、通称アイ(愛)プログラムの2期目の研修医で、1年目は松山赤十字病院、2年目を当院の研修医として学びました。同センターはセンター長である高田先生をはじめ、スタッフの方が、研修医一人ひとりを気にかけてくれましたね。通常、3年目からは専門科を絞って医局に入局したり、他の病院に就職しますが、専門が決まらない場合は、更に研修を続けるなど、研修プログラムも個々の希望によつ

て柔軟に対応してくれ、自分の望み通りの研修ができます。本学の医学部を卒業された方や愛媛県出身の研修医は、ぜひ、この臨床研修制度を利用してほしいですね。

私が大学病院を選んだのは、将来のことを考えたことです。女性はいつか、100%の力を仕事だけに注げなくなる時期が来ます。その時、大学病院であれば、大学院への進学など、医師以外でも医療に携わる進路があるのではないかと考えました。また「女性のハンディキャップは社会全体で補うべきだ。」と院長自らの発言もあり、女性が働きやすい職場に改善しようと附属病院に女性医師部会を立ち上げ、私も委員になりました。離職した女性医師の職場復帰に対する支援にも取り組みます。自分の将来のためにも、もっと女性が働きやすい職場作りを目指したいと思います。

禁煙成功に向けて、身体的、精神的に手助けをする

禁煙外来 川上真理子 看護師



PROFILE

かわかみまりこ ◎1973年愛媛県立公衆衛生専門学校卒業。愛媛大学医学部附属病院 第2内科に13年勤務。育児のため一度退職したものの、復職し当院の内科勤務。趣味はお琴と三味線。教室の発表会などで、その成果を披露する腕前。

禁煙外来では、問診や検査をして、ライフスタイルに合わせた禁煙治療、生活指導、アドバイスをし、約3カ月で禁煙成功に導きます。当院では昨年6月から、禁煙治療で保険の適用ができるようになりました。いくつかの条件に該当される方は、保険適用で治療費が軽減されます。昨年6月からの1年間で、100名以上の方が禁煙外来を受診され、禁煙成功率はおよそ5割。自らが本気で止めたいと思って来院された方は、成功される方が多いですね。先日、患者様がわざわざ、禁煙成功のお礼に来てくれました。来院する度、スタッフが声をかけてくれたので頑張れたそうです。多くのスタッフが一つのチームとして、患者様の応援ができたことを嬉しく思いました。

どうしてもタバコが止められない方は、ニコチン依存症です。喫煙しないとニコチン

の血中濃度が下がり、イライラする、集中できないなどの辛い離脱症状が現れます。現在は、ニコチンパッチでニコチンを補充する代替療法で、楽に喫煙を止めることが可能です。こうして体の中のニコチンを少しづつ減らしていきながら、生活指導でタバコの要らない生活に変えていきます。タバコは身体的な影響と、精神的な依存の強さがあるので、両方をフォローしていくのが私たちの役目です。呼吸器はもちろん、心臓、循環器や血液などの疾患を抱えている方は、喫煙をすぐでも止めいただきたい。今すぐ病気にならなくても、血流が悪くなるので、全身に何らかの影響が出ます。また、タバコから出る副流煙は、周りの人々や家族の健康まで損ねます。少しでも喫煙を止めたいという気持ちがある方は、ぜひ私たちに相談してください。

愛媛大学医学部附属病院 センター・施設のご紹介

お気軽にご相談ください

海外旅行
感染症外来を
開設しました

平成19年5月、医学部附
属病院に新たな外来窓口「海
外旅行感染症外来」を開設し
ました。

現在、日本の海外旅行渡航
者数は年間約1700万人にの
ぼり、愛媛県においても約10
万人が海外への渡航を行って
います。渡航先によっては、現
地で流行している感染症等へ
の対策が必要な場合があります。
これまでにもマラリアなどの
感染症で本院を受診された方
も多く、このような背景のもと、
海外渡航者の出国前・帰国後
の健康管理を目的として、感染
予防・診断書作成・健康相談
などを行う専門の外来窓口を開
設しました。

診療は毎週月曜日の13時か
ら16時(祝日は除く)、完全予
約制となっています。また、本
外来は保険診療適応外であり
自費による自由診療となります。

◎問い合わせ先：
医学部附属病院
医療福祉支援センター
TEL: 089-960-5322
FAX: 089-960-5959
E-mail:sien@m.ehime-u.ac.jp

ヘルスアカデミー いきいき健康ライフセミナー



高島屋ローズホールにおいて開催しました。横山雅好附属病院長、松本陽子氏(松本陽子健康体操研究所長)、樋本真聿医療福祉支援センター長が講演等を行い、会場に訪れた定員いっぱいの300人の聴衆は、講師の話に熱心に耳を傾けていました。

今我々は医療制度改革に明記された「患者満足度の向上」と「医療費抑制」という一見互いに矛盾するように思える命題を実現する必要性に迫られています。そのためにもこの取組みのような、地域の関係機関が協力し、「共助」の中で地域の底力を引き出していくことの重要性を強く感じています。

今後、地域のさまざまの方々の御協力をいただき、魅力あるセミナーを企画して参ります。



愛媛大学医学部附属病院は、「地域に開かれ
た病院」から「地域に出かけていく病院」をスロー
ンに、地域医療の発展に取り組んでいます。そ
の一環として、いよてつ高島屋と共同で「ヘルス
アカデミー いきいき健康ライフセミナー」を定期
的に実施することになりました。

その第1回を平成19年6月24日(日)、いよてつ

医療福祉支援センター
TEL: 089-960-5322 FAX: 089-960-5959 E-mail: sien@m.ehime-u.ac.jp

研修医合同情報交換会

平成19年6月2日(土)、より良い臨床研修を目的に「研修医情報交換会」を開催しました。総合臨床研修センターが主体となり、「アイネットワーク」(県下の研修医の大半が登録するネットワーク)に登録する研修医を集めて、研修医間で共通する問題や各病院での研修における経験報告などを話し合う情報交換会です。共通の課題である抗菌薬の講義も行い、情報交換会の終了後には指導医も参加し、各診療科の説明会・懇親会も行い有意義な交換会となりました。



総合臨床研修センター
TEL: 089-960-5098 FAX: 089-960-5131
E-mail: kenshu@m.ehime-u.ac.jp

腫瘍センター設置記念講演会

平成19年7月13日(金)、癌研有明病院化学療法科畠清彦部長及び同病院 花出正美看護師長を講師に迎え、約100人の参加を得て講演会を実施しました。



この講演会は、昨年12月に設置された腫瘍センターの開設と今年1月に本院が地域がん診療連携拠点病院に指定されたことに伴い、医療従事者の研修を目的としたものです。経験豊富な両講師のお話は、がん診療連携拠点病院のスタッフとしての責務を自覚する絶好の機会となりました。

医療サービス室(中央診療施設担当)
TEL: 089-960-5181 FAX: 089-960-5134

編集後記

みなさん今日は、INVITATION第9号をお届けします。私は編集委員長として毎号最終原稿をチェックしていますが、その度に次々と登場する愛大病院のスタッフの笑顔とやる気に随分と励まされています。この向上心と期待にあふれた全ての分野の職員の力があれば、私たちの未来は明るいと確信できるからです。日本の医療界はまだまだ厳しい状況ですが、私たちは熱意とプライドを持って、地域と患者様に最高の医療を提供できるよう、日々がんばって参ります。

◎愛媛大学医学部附属病院広報委員会
委員長 檜垣實男

◎表紙の人
生体機能管理学 本多亮子 助教
—手術室にて—



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 Tel.089-964-5111(代)
ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>